

# 国際交流 もりおか



MORIOKA INTERNATIONAL RELATIONS ASSOCIATION

[発行] 公益財団法人盛岡国際交流協会 〒020-8530 岩手県盛岡市内丸12番2号 盛岡市役所本庁舎1階

[TEL] 019-626-7524 [FAX] 019-622-6211 [URL] <http://www.mira-morioka.com/> [E-mail] [info@mira-morioka.com](mailto:info@mira-morioka.com)

3年後に控えた2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて国が推進する「ホストタウン」の活動が日本全国の自治体で活発化する中、盛岡市ではカナダを相手国とした事前キャンプ地誘致のためのプロモーション活動を進めていましたが、12月9日に県内の自治体では初となる第3次登録が決定しました。これは内閣官房オリパラ事務局によって決定されるもので、ホストタウンとなる上でのファーストステップとなります。今後カナダの各競技団体との事前キャンプの正式合意へ向けて、視察受け入れや交渉が行われます。



## 2020年東京オリンピック カナダチームのホストタウンを目指す盛岡

# カナダを相手国とするホストタウンに決定！ ～プロジェクトチームの舞台裏～

盛岡市をオリンピックの事前キャンプ地としてプロモーションするため、市スポーツ推進課と当協会の連携のもと、プロジェクトチームが結成されました。チームは、昨年10月末から約1週間の日程で、カナダのビクトリア、バンクーバー（ブリティッシュコロンビア州）、カルガリー（アルバータ州）を訪問しキャンプ地としての盛岡広域圏のプロモーションをしました。交渉相手のリサーチから訪問に至るまで、プロジェクト前進の裏には、姉妹都市ビクトリアで深いつながりを持つ、ビル・マクレディーさん（ビクトリア盛岡友好協会会長）の協力がありました。マクレディーさんの紹介により知り合うことができた、スポーツ関係の広報やコーディネートの会社を運営するマーク・デフリアスさんのコーディネートにより、各競技団体の責任者へ訪問の意図を伝え、アポイントを獲得するまでに至り、プロジェクトチームのカナダ訪問が実現。ラグビー、スポーツクライミング、カーリング、スピードスケートなどの訪問先では、遠く離れた盛岡から訪れたことへの温かい歓迎を受け、熱意に応えたいという言葉いただきました。帰国約1か月後、第3次登録が遂に決定しました。



盛岡のアスリートを世界の舞台へ  
エイト・オリンピック・プロジェクト始動



2020年東京オリンピックを目指すアスリートたちへ  
皆さんの応援をお願いします。

ホストタウンのほかにも盛岡市は、盛岡広域8市町からオリンピック選手の輩出を目指す“エイト・オリンピックズ・プロジェクト”を始動。これは、多くの感動が生まれた2016希望郷いわて国体で活躍した選手をはじめ、オリンピック出場を目指す若きアスリート達の練習環境の整備や宿泊遠征の支援を行うものです。これらオリンピックに向けた様々な活動は、今後更に活発になることが予想され、“2020年東京の感動を、盛岡で”を合言葉に、市ではふるさと納税を利用した寄附を募る活動もスタートしています。当協会でも市と連携しこの活動を推進していきます。



故ピーター・ポーレン氏  
(ビクトリア市ホームページより)

1月3日、カナダビクトリア市元市長のピーター・ポーレン氏が永眠されました。ビクトリア市のインナーハーバーの美しい景観が今日に残されているのは、“産業のためではなく人々のために”と政治家として手腕を振るったポーレン氏の遺産であると言われていています。近代的なビクトリア市の発展を形作ったポーレン氏は、盛岡市との姉妹都市締結においてもかけがえのない存在でした。遡ること1985年5月23日、ビクトリア市のシティホールで盛岡市との姉妹都市締結式が行われ、当時の盛岡市長太田大三氏と署名を交わしたビクトリア市長こそ、ピーター・ポーレン氏その人でした。

## Former Victoria Mayor Peter Pollen Passes Away

姉妹都市交流を進めるために、盛岡からビクトリア市長に手紙を持参した最初の人です。ポーレン氏を偲んで、彼の知られざるエピソードを伺いました。

盛岡から手紙を携え、坂下さんがポーレン氏に出会ったのは、姉妹都市締結の約1年前、1984年4月30日。坂下さんは、その時交わした言葉が一生忘れられないと、感慨深げに当時を振り返ります。その日ビクトリア市長室を訪れたのは、ジム・マレー氏（当時のカナディ



坂下陽市氏

アンパシフィック航空社員)、ブライアン・スモール氏（当時のビクトリア商工会議所専務)、バンクーバー在住の通訳を担当した高橋氏と坂下さんの4人。藤根六郎氏（当時盛岡市助役)と川村徳助氏（当時盛岡商工会議所会頭)2人の紹介状を受け取り、坂下さんから新渡戸稲造の縁での姉妹都市交流をしたい旨の申し入れを聞いたポーレン市長は、“Mr. Sakashita, It's a Good Idea!”と言い、2人は固い握手を交わしたそうです。ポーレン氏は続けて、「市や行政は変わっていくので、官民の協力での交流を続けてほしい。」というアドバイスがあったそうです。そのわずか10日後には、5月3日付で姉妹都市締結に向けて取り組むという書簡が、藤根助役の元に届いたそうです。そして1年後には正式に姉妹都市関係の締結が実現しました。



ポーレンご夫妻と坂下ご夫妻  
ビクトリア市政150周年祭にて(2012年8月2日)

この背景には、盛岡の国際化を願った坂下さんの情熱とそれを後押しした藤根助役の協力、そしてポーレン市長の決断がありました。既に2つの都市と姉妹都市関係にあったビクトリア市は、他の自治体から打診を受けていたにもかかわらず、盛岡からの提案に耳を傾け決定を下しました。締結から32年が経とうとしている今、坂下さんはこう付け加えます。「人との出会いは人生からの招待状。最高の贈り物です。私の人生での一番の出会いはピーター・ポーレン氏。彼との出会いが無ければ、姉妹都市は実現しなかったのでは」と。美しい花と緑の街ビクトリア、そしてポーレン市長に出会えたことに感謝し、盛岡の地からご冥福をお祈りします。



# Foreign Friends in Morioka

寒い冬、皆さん元気にお過ごしですか？今回は、盛岡より北に位置する“世界で一番面積が広い国”ロシア出身のローマンさんをご紹介します。



岩手大学 工学研究科  
ローマン・トリグベンコさん

## 出身はロシア北部、北極圏の近く！

出身は、ノーヴィ・ウレンゴイという街です。大きくはありませんが、天然ガスや石油の採掘拠点として有名です。盛岡に来る前の6年間は、サンクトペテルブルクに住んでいました。西部のとても美しい街で、ロシアで1番だと思えます。数多くの素晴らしい作家や作曲家の出身地で、ロシアの歴史が感じられるところです。

## 盛岡を選んだのは、地質学者としての好奇心

盛岡に来て、約1年半になります。日本には調査するフィールドが沢山あって、地質学者としては本当に興味深いところです。岩手山やその周辺の火山に惹かれて、岩手大学で勉強することを決めました。日本の好きなところは、『人と自然』です。日本は小さい国ですが、みなさん大きくて温かい心を持っています。道徳を重んじていて、いつも喜んで手助けしてくれますし、支えてくれます。自然も美しいです。歴史遺産を大切にしながら発展していると思います。日本語以外には不便は感じませんが、住み始めて最初に必要になる銀行とか市役所、他の公的機関に英語のサポートが無かったのが大変でした。

## ロシアでも身近に感じる日本

ロシアでも日本文化や日本語が好きなのは沢山います。多くの町には日本語学校や日本のカルチャーセンターがありますし、インターネットでもロシア語で沢山の情報を知ることができます。

## 寒いのに慣れっこ！盛岡は過ごしやすい!?

ノーヴィ・ウレンゴイは-30℃とか-35℃の気温が当たり前にあります。サンクトペテルブルクは-5℃位です。ロシアの人はこの気温ですと過ごすので、私たちにとってはこれが心地いいんです。建物の中なら大体25℃位あるので、外がどんなに寒くてもあまり関係ありません。冬にウォーキングやスキーを楽しむ人も多いです。でも大体は友達の家で過ごすことが多いです。この気候が好きなので盛岡の冬はとても過ごしやすいです。

## 教えて！あなたの活動！

## 目指せ！Inazo！～我ら世界の架け橋とならん～Pioneer Spritsで挑戦！

岩手中高等学校 国際交流部 顧問 田中佳恵

盛岡出身の新渡戸稲造が書いた「武士道」との出会いから、“Think Globally”、“Act Locally”にこだわって活動しています。世界各国について目を向ける国際理解・交流活動はもちろんのこと、私達の住む岩手と日本の魅力を世界に発信する活動や、岩手に来られた方々に岩手の魅力を伝え、おもてなしする活動にも力を注いでおります。

新渡戸稲造の研究は、今年で5年目。稲造は1927年に本校で講演会を行い、「先駆けの精神～Pioneer Sprits～」というメッセージを当時の岩校生におくりました。そのような経緯もあり、部員達は、稲造と深い縁を感じ、“Pioneer Sprits”で、日々、新しい活動に挑戦しています。

パワーポイントを使ってのプレゼンテーションを得意としております。2015年度は「全国国際教育研究大会」に出場し、新渡戸稲造の「武士道精神」をモチーフに、「真の国際人」について考えたことを発表してきました。

2016年度は、「AIU 米国高校生国際交流プログラム」において、日本代表高校生外交官の一人に選ばれた部員が、米国代表高校生と京都で文化交流をおこなった際、「武士道精神」を取り上げて、稲造が目指した「世界平和」について話し合ってきました。そして、2017年度は、新渡戸稲造をはじめとする岩手の先人達の功績、特に「岩手と台湾の繋がり」について研究をしています。岩手には、先人達から引き継いでいる素晴らしい遺産が多くあります。国際交流活動をおこなうには、まず、自分達の地元を愛することから始めることが大切だと考えています。それは、新渡戸稲造の「武士道精神」から学んだことなのです。稲造のような「世界の架け橋」を目指して、日々精進しております。



2016年8月 「台湾さんさ民族舞踊団」サポート

## スペイン語講座

1月から3月にかけて「今から始めるスペイン語講座」を開催しました。講師はパラグアイ出身で現在は盛岡に在住のゴンザレス・カルロス・ハビエル氏。スペイン語を話すために必要となる基礎やカルロスさんの出身国について学びました。カルロスさんが育ったパラグアイのイグアスには岩手の人が多く住んでいて岩手県人会や日本人学校があり、毎年行っていた短期留学プログラムがきっかけで初めて盛岡に来たというカルロスさん。

流暢な日本語で講座が終わってからも受講生の質問に答えるなど和やかな雰囲気での講座となりました。



## 姉妹都市出前授業 in 仁王小学校

2月14日、新渡戸稲造博士の母校である仁王小学校で4年生の約70人を対象に、姉妹都市交流についての出前授業を行いました。仁王小学校の4年生のみんなは、盛岡市とビクトリア市を様々な面から研究することで、盛岡市をより知ろうという新しい試みを行っています。出前授業では、ビクトリア市の位置、街の様子、住んでいる人、食事などを紹介。クイズにも元気に発言して、一生懸命メモを取る姿が印象的でした。生徒たちは出前授業をきっかけに、姉妹都市交流について学習するそうです。共に姉妹都市交流を盛り上げましょう！



## Celebrate Canada's 150th Anniversary of Confederation

新春ニューヨークタイムスから発表された、2017年訪れるべき52箇所を紹介するランキング“52 Places To Go in 2017”で、見事第1位に輝いたカナダは、今年建国150周年を迎えます。それに伴って、国立公園の入園料が無料になるなど、カナダは国を挙げての祝福モードです。6月21日のナショナル・アボリジナル・デーを皮切りに、24日のセント・ジーン・パプティスト・デー、27日のカナディアン・マルチカルチュラルイズム・デー、7月1日のカナダ・デーまで11日間にわたるセレブレイト・カナダの催しは、今年大きな盛り上がりとなりそうです。カナダ政府はインターネットに150周年専用ページを設け、様々な情報を掲載しています。



### 平成29年度賛助会員募集は4月からスタート！

昨年度賛助会員にお申し込みいただきました皆様、ありがとうございました。盛岡国際交流協会では、今年度も賛助会員の募集を4月からスタートします。会員になると当協会が主催する語学講座の先行申込や参加費の割引が受けられます。ご希望の方は、盛岡国際交流協会までお問い合わせください。皆さまのご支援を今年度もよろしくお願いいたします。

●年会費（4月～翌年3月まで）

個人：1,000円 団体：10,000円

※自動更新ではありません。

—お問い合わせ—  
盛岡国際交流協会  
TEL. 019-626-7524



### 平成29年度もMIRAをよろしくお祈いします

当協会主催の講座やイベントにご参加・ご協力いただきました皆様に、厚くお礼いたします。現在、気持ちも新たに、今年度へ向けての事業を計画中です。来年度も皆様との国際交流の場を提供できるよう、スタッフ一同頑張ります！今年度実施予定の事業の詳細は、随時ホームページやフェイスブックでご紹介いたします。



ホームページ



Facebook ページ